



# ハートフルナース

## 2017年 再受験支援プログラム開始

7月23日(日)にジャカルタのミエ学園にて、2018年2月の看護師国家試験の再受験を希望する方々に第1次選抜試験を実施しました。追加応募もあり、追試験を実施した結果、今年度は4名で学習会をスタートすることになりました。2か月間の学習を経て10月末に第2次選抜試験を行い、最終的な支援者を決定する予定です。



テキストを広げる支援者とボランティアたち

今回の看護師国家試験は、これまでとは出題基準や傾向が大きく変わると言われています。そのため、新しく発行された問題集の中から、学習に使うテキスト2種を選び、プログラム参加者に提供いたしました。

日本人の看護学生にとっては、傾向が変わるとはいつても、これまで学習してきた内容ですから、それほど大きな変化は感じないのかもしれませんが、しかし、一つひとつの日本語の意味を読み解きながら、問題を解いていかなければならないインドネシア人にとっては、過去問題集で見たことのない問題に向かい合うのは、とても大きなハードルになります。そのような大変さを承知の上で、勉強に取り組んでもらうように伝えました。

## 日本の看護学生が、インドネシア人 看護師の再受験のための学習会を訪問

8月27日(日)に、第2回の学習会を実施しました。この日は、宮崎県立看護大学の学生9名と教員1名が、異文化体験プログラムの短期研修でジャカルタを訪れており、JAMNAの再受験支援の学習会を訪問してくれました。

この日の学習会は、インドネシア人看護師が一番得意だという社会保障制度や法律などに関する資料を使い、日本人の元看護師など4名のボランティアが個別指導を行いました。

この様子を見学した看護学生は、インドネシア人が看護の専門用語を漢字で書きながら勉強していることに感心し、自分たちと同じ日本語の国家試験を受けることに驚いていました。また、EPAにより海外から看護師、介護福祉士候補者が日本に来ていることを初めて知ったという学生がほとんどでEPAの制度や、なぜ再受験のために勉強をしているのかなど話を聞いた学生たちは「せっかく日本に来てもらうのに、この制度はどうにかからないのだろうか」と問題意識を持ったようでした。さらに、「自分達が一緒に働く立場になった時には、日本の看護について教えてあげられるような看護師になりたい」と語ってくれました。

JAMNAの学習支援の見学は、看護学生たちにとって、いろいろなことを考えるきっかけになったようであり、有意義な時間を過ごせてもらえたのではないかと思います。



受験勉強を教えるボランティアと見学する学生たち